湘南医療大学 大学院

Graduate School of Shonan University of Medical Sciences





2024年度　入学案内

保健医療学研究科 保健医療学専攻【博士後期課程】

看護学領域・リハビリテーション学領域

学校法人 湘南ふれあい学園



大学院研究科長 メッセージ

創造性に満ちた研究者、高度に優れた管理能力を有する高度専門職業人、研究能力を有する大学教員の養成を目指して

湘南医療大学は、2024 年 4 月に保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程を開設いたしました。本博士後期課程では、さらなる創造性に満ちた研究・開発能力を有し、多彩な研究が遂行可能な研究者や、医療施設、保健施設、行政、地域で保健医療学の実践に携わる多彩な職種の中で中心的役割を担える管理・指導能力を有する高度専門職業人、さらに保健医療学分野の大学において確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた教員を養成いたします。
すでに湘南医療大学には、保健医療学研究科修士課程が開設されています。博士後期課程では、修士課程の教育・研究の分野を深化させ、保健医療学に於ける研究対象領域を「看護学」と「リハビリテーション学」領域に集約し、研究領域を看護学、リハビリテーション学とする事で、本研究科の教育課程を修了すると、博士（看護学）、あるいは博士（リハビリテーション学）を取得可能となります。



喜多村 健

研究科長プロフィール
東京大学医学部を卒業後、東京医科歯科大学医学部附属病院 副院長、東京医科歯科大学副学長、日本耳科学会理事長などを経て、現在、湘南医療大学副学長および湘南医療大学大学院研究科長に就任。また、医療法人社団康心会茅ヶ崎中央病院耳鼻咽喉科にて臨床の最前線にも携わっています。

建学の理念

湘南医療大学大学院は「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」の理念のもと、人とのふれあいを通して、他者を思いやり、生あるもの全てに感謝し、その人らしさを大切にする教育を実践し、すべての人々の幸せに役立つ人材の育成を目指します。

湘南医療大学大学院の目的

湘南医療大学大学院は、本学の理念に基づき、保健医療学の学理及び応用を教授研究し、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、 健康と福祉社会の進展に寄与することを目的とします。

学びの特長

1 高度な専門性を持つ研究者、高度専門職業人、大学教員の育成

本大学院 博士後期課程では、保健医療学を基盤とする「看護学」「リハビリテーション学」の2研究領域を設け、看護職及びリハビリテーション従事者を対象に、以下のような人材を養成します。

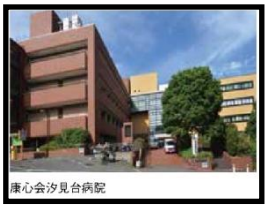
1. 臨床的学問探求を培い、保健医療学を基盤とする看護学、またはリハビリテーション学のいずれかの領域の更なる創造性に満ちた研究・開発能力を有し、多彩な研究を遂行できる研究者。
2. 保健医療学を基盤とする看護学、またはリハビリテーション学のいずれかの領域を対象とした学問的基盤を熟知し、看護学、またはリハビリテーション学の実践において臨床現場で管理・指導能力を有する高度専門職業人。
3. 保健医療学を基盤とする看護学、またはリハビリテーション学いずれかの領域の学問的基盤を熟知し、看護学、またはリハビリテーション学の実践において確かな研究能力と教育能力を兼ね備えた大学教員。

2 豊富なグループ関連病院が研究科生をサポート

本大学院は神奈川・東京・静岡に17病院、70以上の医療・福祉施設をもつ「ふれあいグループ」の支援を受けています。これらの施設は本研究科生の実践的な研究等の場として協力を受けています。
また、実務経験豊富な医師、看護師、保健師、理学療法士、作業療法士など、多職種連携のもとで指導を受けて、高齢者・障害者支援、公衆衛生、精神保健、ウィメンズヘルス、運動機能・脳機能・呼吸循環機能に対するリハビリテーション療法などの領域を中心に、地域の包括的な支援・サービス提供体制に必要な学びと研究が可能となっています。


湘南東部総合病院


茅ヶ崎中央病院


康心会汐見台病院


ふれあい横浜ホスピタル

3 働きながらでも学べる多様な環境

◆ 夜間開講
平日の授業は6時限および7時限に多く開講します。

◆ 土曜開講
平日の他、土曜日の1時限から4時限にも開講します。

◆ 長期履修制度
社会人など、3年で修了することが困難な学生を対象に、最長5年の長期履修制度を適用します。

時間割	
1時限	9:00~10:30
2時限	10:40~12:10
3時限	13:00~14:30
4時限	14:40~16:10
5時限	16:20~17:50
6時限	18:00~19:30
7時限	19:40~21:10

4 教育訓練給付金制度

働く方々の主体的な能力開発やキャリア形成を支援し、雇用の安定と就職の促進を図ることを目的とします。
給付対象として認められ、教育訓練修了後、受講費用の**20%**(上限**10万円**)が支給されます。
なお、給付を受けるには一定の条件がありますので、受給資格の有無については事前にご自身でハローワークにお問い合わせください。

看護学領域

看護学領域では、専門的な知識や技能を有し、看護学における研究をさらに深化させる探求心と洞察力を備え、独創性や自立して研究を行える能力と発信力を身に付けた研究者、看護系大学における教育者、臨床管理・臨床指導能力を身に付けた高度専門職業人として社会を牽引できる人材を育成します。



KEYWORD

健康支援ケアシステム学、地域生活ケアシステム学、生涯発達ケアシステム学

多面的な知のプロフェッショナルを目指す

看護学領域では、看護研究を通じて地域社会・医療において看護ケア価値を形成するために必要な実践力を養成します。具体的には、看護ケアの課題設定と設計、看護ケア形成と決定、ケアの実施と管理、看護ケア評価を行うために、創造性と多彩性を備えた専門的、実践的により高度なレベルでの理論と方法を身につけた上で、看護プロセスの各段階でそれぞれの役割を理解するとともに、現在の地域医療体制を批判的に検証し、地域に必要な看護ケアの形成と実現を探求する力を身に付けます。

実習やアクティブ・ラーニング、ディスカッションを含めたライブ感あふれる講義

授業では、講義・演習・実習等の教授形態に応じて、アクティブ・ラーニングや体験型学習などを適宜組み合わせて行います。

様々な研究分野においてプロフェッショナルである教員だけでなく、学生同士が講義を通して交わることにより、看護領域における研究能力だけでなく、コミュニケーション能力に卓越し、多職種協働における管理や指導能力を有した研究者・教育者・高度専門職業人を育成します。

幅広い研究分野

- **健康支援ケアシステム学**
  臨床看護領域のケアの目的である実践的な健康支援の課題について、学際的な視点から探求し、必要な理論・実践方法を修得します。
- **地域生活ケアシステム学**
  地域生活看護領域のケアにかかわる地域マネジメントとケースマネジメント及び協働能力等のケア能力に必要な理論・実践方法を修得します。
- **生涯発達ケアシステム学**
  人々のライフサイクルに基づいた、各世代性別における人々の健康の諸課題を解明し、生涯発達看護領域のケアなどに必要な理論・実践方法を修得します。

各科目における研究内容は幅広く、看護教育学、がん看護学、感染看護学、救急・クリティカルケア看護学、精神看護学、地域看護学、ウィメンズヘルス、小児看護学などがあり、「地域医療の課題と研究」と「地域医療の課題の解決」の観点から指導を行います。

取得学位	博士（看護学）

リハビリテーション学領域

リハビリテーション学領域では、専門的かつ高度な知識や技能を有し、リハビリテーション学研究を深化させる探究心と独創性及び洞察力を備え、自立して研究を行い得る能力や臨床管理・臨床指導能力を身に付けた教育者、研究者、高度専門職業人として社会を牽引できる人材を育成します。



KEYWORD

地域生活支援学、身体機能支援医療学

幅広い知識を修得した知のプロフェッショナルを目指す

リハビリテーション学領域では、生活の視点に立って、疾患、障害、機能とそれらに関わる医学、職業、社会、教育、工学、相互作用などの多様性を理解し、利用者及び患者が、その人らしく生きることができる「日常の回復と再生」と「リハビリテーションサービスの制度化」が構成する主体的関係性（患者が主体的に療法士と行う）と受態的関係性（療法士が患者の自立を抑制する）が平衡状態の中で、急性期、回復期、維持期を踏まえた新たな地域リハビリテーションにおける形成を探究することができる実践力を身に付けます。

豊富な臨床経験を有する教員によるリハビリテーション実践課題を探究する授業

リハビリテーション学領域では、身体機能支援医療学特論及び身体機能支援医療学演習、地域生活支援学特論及び地域生活支援学演習を科目として設置して、心身機能障害を抱える対象者の諸問題と解決方法論について、幅広い知識と技術を備えた臨床経験豊かな教員が教育を担当することが特徴です。受講生のだれもが感じているリハビリテーション領域における身近な問題について、様々な角度から議論し、課題解決に向けた方法論について協議し、リハビリテーションの未来へと繋ぐ授業を展開します。

グループとしてのスケールメリットを利用する充実した指導陣

専門科目の講義を担当する教員は本学の専任教員はもちろん、神奈川・東京を中心に病院や福祉施設を展開するふれあいグループの現役医療従事者が教員として授業を担当します。最新の医療技術や実践的なアプローチによる充実した講義が受けられます。 また、よりライブ感あふれる講義とするために、学内やグループ内施設に設けられた専門的な設備や機器を利用しての授業も行われます。

取得学位	博士（リハビリテーション学）

研究指導教員紹介

看護学領域		
ページ	教員名	担当科目
7	川本 利恵子 副研究科長・教授	保健医療学実践研究／健康支援ケアシステム学特論／健康支援ケアシステム学演習／看護学特別研究
8	石川 眞理子 教授	看護学特別研究
9	牛田 貴子 教授	生涯発達ケアシステム学特論／生涯発達ケアシステム学演習／看護学特別研究
10	片山 典子 教授	保健医療学基盤研究／保健医療学実践研究／地域生活ケアシステム学特論／地域生活ケアシステム学演習／看護学特別研究
11	本田 芳香 教授	地域生活ケアシステム学特論／地域生活ケアシステム学演習／看護学特別研究
12	村嶋 幸代　教授	看護学特別研究
13	山﨑 圭子 教授	生涯発達ケアシステム学特論／生涯発達ケアシステム学演習／看護学特別研究
14	山勢 善江 教授	保健医療学実践研究／健康支援ケアシステム学特論／健康支援ケアシステム学演習／看護学特別研究
15	渡部 節子 教授	保健医療学実践研究／健康支援ケアシステム学特論／健康支援ケアシステム学演習／看護学特別研究

リハビリテーション学領域		
ページ	教員名	担当科目
16	田邉 浩文 副研究科長・教授	保健医療学実践研究／身体機能支援医療学特論／身体機能支援医療学演習／リハビリテーション学特別研究
17	大森 圭貢 教授	保健医療学実践研究／地域生活支援学特論／地域生活支援学演習／リハビリテーション学特別研究
18	鈴木 雄介 教授	保健医療学実践研究／地域生活支援学特論／地域生活支援学演習／リハビリテーション学特別研究
19	森尾 裕志 教授	保健医療学実践研究／身体機能支援医療学特論／身体機能支援医療学演習／リハビリテーション学特別研究
20	山田 拓実 教授	地域生活支援学特論／地域生活支援学演習／身体機能支援医療学特論／身体機能支援医療学演習／リハビリテーション学特別研究
21	増田 雄亮 准教授	保健医療学実践研究／身体機能支援医療学特論／身体機能支援医療学演習／リハビリテーション学特別研究

※研究指導教員および担当科目は2023年11月の情報に基づき作成しています。

川本 利恵子 副研究科長・教授

Rieko Kawamoto



学位・資格・所属キャンパス

博士(医学)
看護師
東戸塚キャンパス／横浜山手キャンパス

専門分野

主な専門分野は臨床看護分野です。研究テーマに示したような疾病や治療に伴う健康問題に健康支援が必要な看護実践ケアの課題など、臨床看護学の意義ある研究課題に焦点をあてます。具体的には、疾病や治療に伴う健康問題を抱える人々の生活やQOLへの影響要因などの調査を行い分析し、支援としての看護実践ケアの有効性を検討します。これらの一連の研究プロセスと成果を通して、臨床看護学の発展を目指します。この他、看護管理や看護教育、心理分野も重要な専門分野として研究を行っています。

指導方針

臨床看護等に関する研究課題を取り上げ、看護実践ケアのエビデンスが蓄積できるよう、研究プロセスを通して共に研究課題を探求します。質の高い実践者・研究者・教育者としての基本的能力の修得を目指した指導を行います。具体的には、研究課題の解決に向けて、課題に適した研究方法を探索します。最終ゴールとして、研究論文を完成し発表を行う方針です。

研究テーマ

健康問題を抱える人の生活を支援する看護実践ケアに関する研究

これらの研究の1例を紹介します。生活の質向上を目的に直腸がんで括約温存筋手術を受けた患者を対象に、術後に調査を行い、自尊心と生活の質の関連を検討していきます。疾患及び治療の特性に伴う健康問題や生活の障害などは、人の尊厳にも関わる障害にもなるので、QOLにも大きく影響します。その影響を分析的に把握します。

ナーシングワークの変容と継続教育に関する研究

近年、ナーシングワークの変容に伴い、看護の専門性を基盤にした維持教育が重要です。これまで看護基礎教育で確立された10の実践能力と行動指標として看護の専門性を測定するために開発されたBIPN(Behavioral Inventory for Professionalism in Nursing)を活用し、看護の専門性に基づく看護ケア実践能力を評価します。

医療提供体制が及ぼす看護実践力の影響に関する研究

医療提供体制の変革によって、患者と家族をとりまく状況は大きく変わりました。そこで、「一般病棟におけるがん患者の家族ケア実践評価スケール」を開発しました。このスケールを活用して、がん患者及び家族のQOL向上の研究を行い、看護実践の質向上を目指します。



担当科目

保健医療学実践研究／健康支援ケアシステム学特論／
健康支援ケアシステム学演習／看護学特別研究

Message

現在、あなたが行っている看護実践に責任を持つために、研究をしてエビデンスを追求したい方、看護の専門職としてのキャリアを追求したい方の受験をお待ちしています。

石川 眞里子 教授



学位・資格・所属キャンパス

博士(看護学)/修士(リハビリテーション学)
看護師/保健師
東戸塚キャンパス

専門分野

小児看護学：小児期から先天性消化管疾患の器質的障害に対する周術期の看護から、機能障害への対応を要する小児慢性疾患の子どもと家族への発達段階を踏まえた排泄障害に対するケアの研究に取り組んできました。その上で、小児ストーマケアと専門外でのフォローアップ、排泄と食に関する研究、小児のスキンケアと創傷管理に対する研究へと繋がっています。

指導方針

臨床の看護実践において看護研究などで取り組んで来られたことなどから研究的課題を深めるために、学術研究としての研究方法を学び、看護専門職としての理念や哲学を持ち、社会に貢献できるように研究論文の完成から論文の公表までを目指していきます。

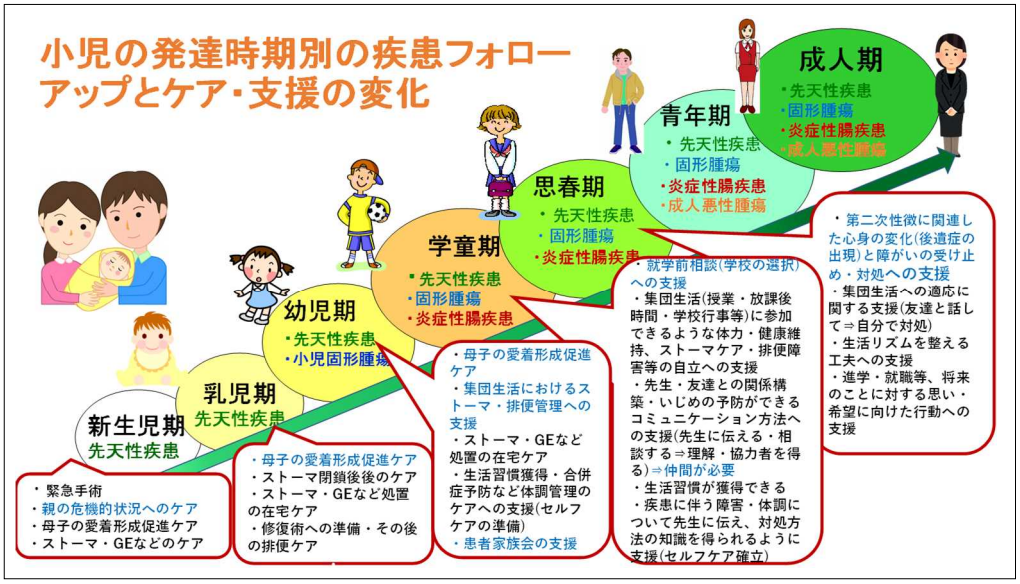
研究テーマ

小児慢性疾患のトランジション

小児期に小児外科疾患で治療を青年期以降も継続する患者が増加しているが、先天性疾患であるためにガイドラインもできていない。そのような青年の成人医療へのトランジションは、本人と家族の意思を聞いてスムーズに移行していくことが課題であり、看護の視点からの研究をしています。

小児期におけるストーマリハビリテーション

小児期には、先天性消化管閉塞疾患の種類が多く認められる。新生児期にストーマを造設してから乳児期までに閉鎖する児、および生涯にわたり保有する子どもは先天性希少泌尿生殖器疾患群として多臓器の形成不全が認められ、医療的ケアが必要になるが、ストーマリハビリテーションとしての支援の方法は確立されていない。その支援体制についての研究をします。



担当科目

看護学特別研究

Message

少子化において小児看護学の対象は病院施設内に限らず地域・在宅(学校)へと拡大しています。小児の専門性の高い看護を社会に示すには研究し発信する力が必要です。小児への看護から大人への看護に関心のある方の受験をお待ちしています。

牛田 貴子 教授

Takako Ushida



学位・資格・所属キャンパス

博士(医科学)

看護師／保健師／助産師／養護教諭

東戸塚キャンパス

専門分野

家族看護学

さまざまな対象への家族看護介入・家族看護学の教授方略

老年看護学

高齢者ケア施設における看護、老年看護学の教授方略

指導方針

保健師、助産師、看護師の経験があり多様なテーマに対応します。これまでの臨床経験や自身の生活経験を理論やモデルを用いて整理し、自分の言葉で表現することから始めます。

研究テーマ

家族看護介入に関する研究

地域ケアシステムの中で家族をどうとらえ専門職として介入していくのか、家族関係の変化を中心に研究しています。カルガリー家族看護モデルを介入の基盤にしています。

高齢者ケア施設における多職種連携に関する研究

高齢者ケア施設に勤務する看護師の実践力の尺度開発の研究から多職種連携に関する研究へと発展しています。現在は、薬剤師や福祉職と一緒に高齢者ケア施設におけるポリファマシーに関する研究に着手しています。

老年看護学の教授方略に関する研究

教師学を基盤において「しかけ」を考え、講義、演習、臨地実習での独自の企画－実施－成果を専門誌に発表してきました。また「高齢者ケアの教師塾」を毎月開催し、高齢者ケアを教えることに関心のある医療福祉系教員、医療職、福祉職等と話題提供や意見交換を行い、多様な考え方や実践から、新たな授業のしかけを探っています。看護系学会では交流集会を毎年開催しています。



担当科目

生涯発達ケアシステム学特論／生涯発達ケアシステム学演習／看護学特別研究

Message

納得がいく看護実践を可視化していきましょう。

片山 典子 教授

Noriko Katayama



学位・資格・所属キャンパス

博士(看護学)／ 修士(看護学)
看護師
東戸塚キャンパス

専門分野

精神看護学全般を専門としていますが、特に地域をベースに若者のメンタルヘルスの研究に取り組んできました。その上で必要な早期精神病の早期介入、看護カウンセリング技術、精神科訪問看護、アディクション看護へと研究分野が広まっていきました。

指導方針

1年次では保健医療学基盤研究や保健医療学実践研究を基盤に地域生活ケアシステム学特論、地域生活ケアシステム学演習を通し、特別研究の基盤となる諸理論やシステム構築のあり方の検討、国内外の様々な文献をクリティークしていきます。またリサーチクエスチョンに沿って学会参加も取り入れています。2年次・3年次では、研究計画に基づいてデータを収集 ・ 分析をしながら論文の完成を目指していきます。

研究テーマ

早期精神病の早期介入に関する研究

早期精神病は前精神病期(prepsychotic period)、初回精神病エピソード(first episode of psychosis)、回復/臨界期(recovery and the critical period)の3期から構成されています。回復/臨界期は若者の人生にとって心理社会的にも重要な時期であり、この時期に起こる生物・心理社会的悪化を防ぐための早期介入の研究に取り組んでいます。

精神科訪問看護に関する研究

精神科訪問看護の研究は、早期精神病の早期介入に関して研究を進める上で、臨界期の青年期統合失調症者に対するケアモデルが日本にはなく、実践現場の看護師が不安を感じながら訪問看護をしている現状でした。 また、早期精神病の当事者や家族も支援の不足を感じ、困っている実態がありました。 そのことがきっかけとなり、臨界期の青年期統合失調症者に提供するケアモデルや教育プログラムの開発の研究に取り組んでいます。

アディクション看護に関する研究

依存症関連の問題は専門的な支援に対する社会的要請は増す一方です。DSM-5ではギャンブル依存症がアディクションに包含され行為嗜癖という概念に変更されたり、WHOは「ゲーム障害」を国際疾病として正式にICD-11にゲーム障害を追加したり、アディクションの概念はこれまで以上により広い概念へとシフトし、重要な研究分野です。そこで、物質依存、行為依存、依存症の予防教育的介入に関する研究に取り組んでいます。



担当科目

保健医療学基盤研究／保健医療学実践研究／
地域生活ケアシステム学特論／地域生活ケアシステム学演習／
看護学特別研究

Message

21世紀は、心のケアの時代と言われています。加速度的に変化する現代社会は、そこに生きる人々に多くのストレスをもたらす結果となっています。このような時代背景のもと、心のケアに対する人々のニーズは増加の一途を辿っています。
研究においても時代的ニーズに即応した研究に熱心に取り組んでいます。

本田 芳香 教授

Yoshika Honda



学位・資格・所属キャンパス

博士（社会福祉学）
看護師／養護教諭／高校教諭
横浜山手キャンパス

専門分野

看護実践教育、省察的実践、
地域包括ケアシステムにおける多職種連携

指導方針

個々人の臨床状況を重視し深層の現実と関わり、その中で隠された実践の意味を相互行為のうちに読み取る働きを促進するため、国内外の論文検索によりエビデンスを明確にし、研究テーマを絞り込んでいきます。国内外の発表経験を行いながら、高い視座に立ち論文作成を進めていきます。

研究テーマ

在宅省察的実践教育に関する研究

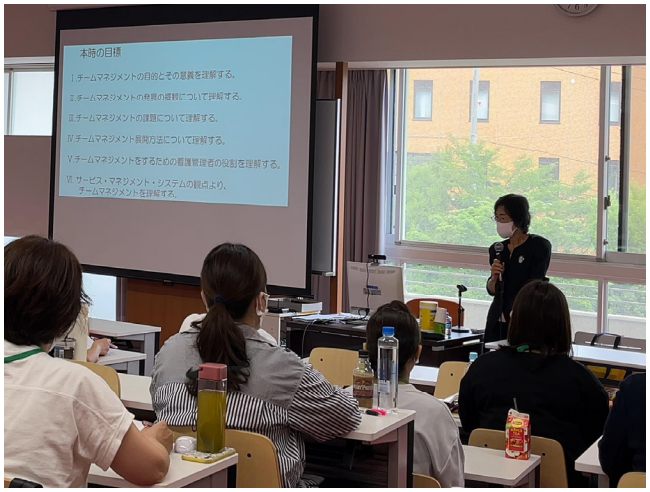
看護実践に根差す豊富な知識やスキルがその中に包含される実践的思考と暗黙知、省察的実践モデル開発など省察的実践教育に関する研究を行います。

看護実践教育プログラム開発に関する研究

中期看護師の看護キャリア開発に関する研究、ジェネラリストの看護実践における理論化に関する研究、臨床の知とナラティブ・アプローチなど看護キャリアに関わる看護実践教育プログラム開発の研究を行います。

在宅看取りケアに関わる多職種連携に関する研究

在宅看取りに関わる多職種連携に関する実践スキル、多職種連携に関わる地域包括ケアシステムなどを包含する新たな地域資源の開発を視座に入れた研究を行います。



担当科目

地域生活ケアシステム学特論／地域生活ケアシステム学演習／
看護学特別研究

Message

看護実践の中で培われた臨床の知を探究していきたい方をお待ちしております。

村嶋 幸代 教授

Sachiyo Murashima



学位・資格・所属キャンパス

博士（保健医療学）
保健師/看護師
横浜山手キャンパス

専門分野

地域看護に関わる分野で仕事をしています。地域包括ケア、退院支援、公衆衛生看護に関わる専門職（特に、保健師）の人材育成、システム化・施策化、在宅ケアの評価等がキーワードです。

指導方針

院生のやりたいことを尊重し、一方で、研究として必要な事項を押さえるようにします。学問を探求する過程が、現実の社会課題の解決・改善にも貢献する知見を生み出すことにつながれば良いと思って仕事をしています。

研究テーマ

地域包括ケアのシステム構築に関する研究

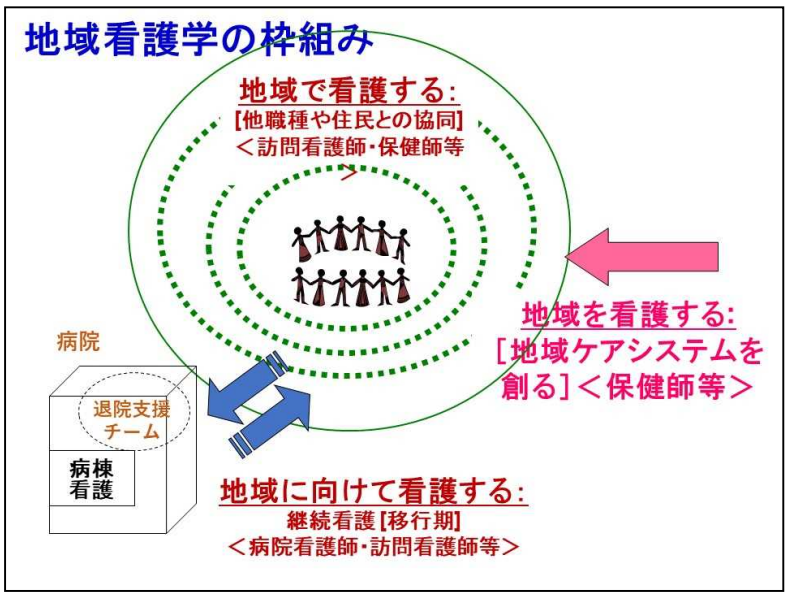
地域ケアにおける種々の要素の評価と構築・多職種連携等を含めて、多様な人々が暮らしやすい社会を創造することについて検討します。

保健師の人材育成に関する研究

保健師の専門性、コンピテンシー等を明確にするとともに、人材育成の手立て等について検討します。

訪問看護の評価に関する研究

訪問看護・在宅ケア・退院支援、および、その評価に関することについて検討します。ナースプラクティショナーの役割開発を含みます。



担当科目

看護学特別研究

Message

研究をすることは、自分と向き合うことでもあります。社会に目を向けて研究テーマを深める過程で、人間的にも大きく成長できると思います。

山﨑 圭子 教授

Keiko Yamazaki



学位・資格・所属キャンパス

博士(看護学)
助産師／アドバンス助産師
東戸塚キャンパス

専門分野

助産学全般とウィメンズヘルスを専門にしています。

特に、出産後の女性のセルフモニタリングやパートナーのソーシャルスキル、産後ケアについて研究を行なっています。

指導方針

ヘルスプロモーションの観点から女性の健康問題における看護を探求し、新しいケアの開発を目指します。
大学院生と教員は、研究のパートナーです。ディスカッションを重ね、皆さんが主体的に研究に取り組めるよう、伴走者として支援していきます。

研究テーマ

妊娠・出産・育児期のメンタルヘルスに関する研究

妊娠・出産・育児期は、これまでの対処法では対応できないことが次々と起きてきます。 特に、産後はホルモンや生活環境の変化により、うまく対処できないと、不安になったり傷つきやすい時期です。妊産婦さんが心身ともに健康で、妊娠・出産・育児を享受できるようにするために、妊産婦さん自身で“こころ”と“からだ”の状態を客観的に把握することができるツールやデバイスを開発する研究に取り組んでいます。

不妊治療を経験した女性へのケアに関する研究

日本は、不妊治療で妊娠するカップルが年々増加しています。不妊症と診断された女性のなかには、“出産しても私は不妊…”という思いが消えない方もおり、リプロダクティブヘルスに関する課題が山積しています。不妊治療中のカップル、不妊治療を経て妊娠・出産・育児期の女性、不妊治療に従事する看護職を対象にした研究に取り組んでいます。

女性のライフサイクルにおける健康問題に関する研究

25～39歳女性の就業率は8割を超え 、女性を取り巻く環境は大きく変化しています。思春期、妊娠・出産期、更年期、老年期の各ステージの健康課題に対応するためのケア形成と実現に向け、学際的な研究を目指しています。



担当科目

生涯発達ケアシステム学特論／生涯発達ケアシステム学演習／看護学特別研究

Message

出産はその国の文化です！ 人生の大切なライフイベントである妊娠・出産・子育てが満足で素晴らしい体験になるよう、女性と家族の健康支援について一緒に考え、研究してみませんか。

山勢 善江 教授

Yoshie Yamase



学位・資格・所属キャンパス

博士(保健学)
看護師／保健師／養護教諭／高校教諭
横浜山手キャンパス

専門分野

救急・クリティカルケア領域看護。急性疾患の発症や事故等により、生命の危機に瀕した患者と家族を対象とした看護。災害看護。

指導方針

1年次は専門科目の履修をうけつつ、専門分野の知見を深化させられるよう、国内外の様々な文献を読みリサーチクエスチョンを明らかにしていく。2年次は博士論文のための予備調査等を通して計画書の作成と研究に着手。3年次は引き続き研究データ収集・分析しながら論文作成の指導を行う。

研究テーマ

救急・クリティカルケアにおける終末期看護

救急看護やクリティカルケア分野で発生する予期せぬ死の場面では患者本人の意思決定がかなわないこともあります。残された家族は、患者との別れの時間の短さばかりでなく、患者の意思を尊重できなかった心残り、やり場のない怒りや悲しみから複雑性悲嘆に陥ることが研究によって明らかになってきました。これらの問題を解決するための看護について研究しています。

救急・クリティカルケアにおける患者と家族へのケア

クリティカルな状況の患者を救うためには多職種が効果的に連携・協働することが必修です。その中で看護は、わずかなバイタルサインの変化を見逃さず、患者のさらなる重篤化を予防あるいは早期対処できる臨床判断能力が求められます。同時に患者と家族の精神的危機状況への看護について研究しています。

災害急性期看護

2004年にインドネシアバンダアチェで起こった巨大津波災害後に、現地の看護教員と「災害看護教育」に関するワークショップを開催し、インドネシア語の災害看護の教科書を作成しました。また、2011年東日本大震災では看護大学チームとして看護ニーズ調査への参加、2018年西日本豪雨災害では救護班として出動した経験を踏まえ、災害急性期看護について研究しています。



担当科目

保健医療学実践研究／健康支援ケアシステム学特論／
健康支援ケアシステム学演習／看護学特別研究

Message

看護は実践の科学です。臨床の強みを生かせる研究をやっていきましょう。

渡部 節子 教授

Setsuko Watabe



学位・資格・所属キャンパス

博士(医学)／修士(看護学)
看護師
東戸塚キャンパス

専門分野

＊感染管理及び感染看護ケアとして問題解決に向けたケアバンドルやケアプログラムの開発
＊地域における感染管理支援システムの開発

指導方針

主に感染看護ケアおよび感染管理としての課題を解決するための研究方法を学修します。1年次は専門科目を受けつつ、国内外の文献検索とクリティーク行い、文献レビュー及び投稿します。1年次後半には研究計画書の作成と倫理審査受審、2年次にはデータ収集及び分析を行います。3年次には海外におけるカンファレンスでの発表と英文ジャーナルに投稿することを目指します。

研究テーマ

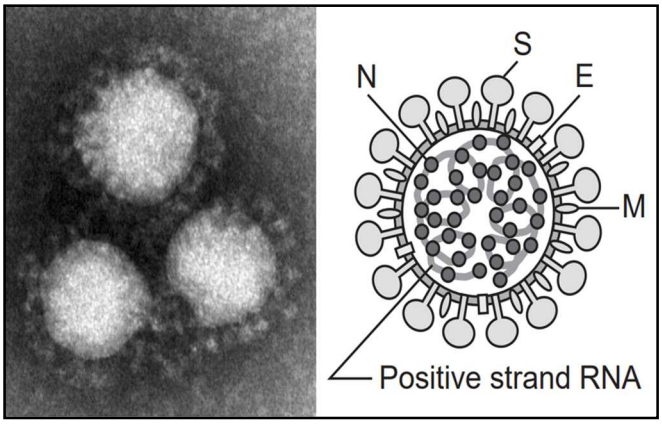
感染管理及び感染看護ケアとしての問題解決に向けたケアバンドルやケアプログラムの開発

医療関連施設や市中における感染管理および感染看護ケアとしての課題を多角的に掌握し、課題解決に向けてエビデンスをもとにしたケアバンドルや看護介入プログラムを開発します。先行研究としては、国内外における感染対策のエビデンスやHigh impact interventionの手法としてのケアバンドル、感染看護ケアにおける看護介入、特に先駆的研究を模索し、批判的にレビューすることを重視します。

地域における感染管理支援システムの開発

COVID-19のパンデミック時に感染管理に関する専門家が不在の中小規模病院・訪問看護ステーション・高齢者施設などにおいては自施設の感染対策に苦慮したケースが多発しました。そのため、感染管理に関する専門家が不在の保健・医療・福祉施設に対して日々の感染対策からパンデミック時の対策まで幅広い感染対策支援システムを開発します。

「SARS-CoV-2」



国立感染症研究所HPより

担当科目

保健医療学実践研究／健康支援ケアシステム学特論／
健康支援ケアシステム学演習／看護学特別研究

Message

COVID-19のパンデミックは収束してきましたが、これまで以上に感染看護は重要視されています。本大学院修士課程において2023年4月に感染症看護専門看護師(CNS)教育課程を設置しましたが、博士課程においては教育・研究者を目指す方、臨床において高度実践看護者を目指す方、いっしょに感染看護を追求してみませんか？
https://researchmap.jp/310505setsuko

田邉 浩文 副研究科長・教授

Hirofumi Tanabe



学位・資格・所属キャンパス

博士(保健学)
作業療法士
東戸塚キャンパス

専門分野

中枢神経疾患の機能回復方法論。特に脳血管疾患に対する脳の可塑性を誘発する課題指向型トレーニングの方法論や再生医療リハビリテーションの方法論について。

指導方針

3年間で博士論文が完成できるように計画的に指導をいたします。1年次は、研究領域に関する文献レビューを繰り返し、リハビリテーションの課題を明確にしながら、リサーチクエスチョンを解明する具体的な方法を明らかにしていただけるよう指導します。1年後期には研究テーマを決定し、研究フィールド、研究方法を具体化し、2年次からは、臨床研究または実験研究を行いつつデータを収集し、3年次後期から論文の執筆にとりかかります。

研究テーマ

中枢神経疾患患者に対する行動心理学的介入の効果について

脳卒中後に麻痺を呈する身体部位を積極的に活動させると、脳は損傷部位とは別の部位に機能を補うゾーンを形成し、新たな神経伝達経路を形成します。研究では、この脳の代償的戦略の促進に必須となる効果的な麻痺肢の運動誘発リハビリテーションの方法と麻痺肢機能回復を生活動作へと汎化させるための行動倫理学的介入方法について臨床的研究を行っています。

運動機能障害を伴う中枢神経疾患患者に対する間葉系幹細胞投与後のリハビリテーション介入効果の検証

再生医療など細胞治療が盛んに行われていますが、外肺葉由来の脳神経細胞は、細胞が置換しても四肢の麻痺は回復しません。まっさらな脳はプログラミングされていないため、運動を学習させるリハビリテーションが必要です。私は置換した脳神経細胞に新たな運動ネットワークを構築させるリハビリテーション方法について研究しています。

音楽家のフォーカルジストニアのリハビリテーション研究

高速弦楽器奏者の病態を明らかにするための臨床的な研究、たとえば、筋緊張の異常を来す因子分析などについての研究や、ジストニア症状を緩和するリハビリテーション方法論について研究しています。



担当科目

保健医療学実践研究／身体機能支援医療学特論／
身体機能支援医療学演習／リハビリテーション学特別研究

Message

身体機能領域のリハビリテーションに関心がある人であれば、具体的な研究テーマを絞り込んでいなくても心配ありません。毎日の臨床や研究への取り組みが楽しくなる研究テーマを私とともにみつけ、私の助言や指導の下で研究を進めましょう。

大森 圭貢 教授

Yoshitsugu Omori



学位・資格・所属キャンパス

博士(リハビリテーション科学)
理学療法士／専門理学療法士(基礎理学療法)
東戸塚キャンパス

専門分野

日常生活活動の再獲得。日常生活活動の再獲得を果たすには、①身体機能の回復、②身体機能に適した動作方法の学習、③環境整備の3つを、対象者の状態に合わせて選択して実施することが必要です。
これら3つを進めていく方法について、理学療法学と応用行動分析学の視点から検討しています。

指導方針

研究を開始するにあたっては、その研究分野の既知と未知を明らかにすることが重要になります。そのため先行研究を十分に検索し、精読、そしてその文献をエビデンスとして、まとめ記録することが必要です。文献抄読会をこまめに行い、その研究分野について理解を深めていきます。

研究テーマ

高齢者の日常生活活動再獲得のための支援に関する研究

医学的リハビリテーションの対象は高齢者が少なくありません。では高齢者が新たな動作を獲得することは可能でしょうか。例えば利き手を用いた活動が障害された場合には、非利き手を用いた活動方法を新たに学習する必要があります。しかし、その練習効果は明らかではありません。そこで高齢者を対象に食事活動の獲得に向けた非利き手箸操作練習の効果などを検証し、高齢者の日常生活活動再獲得支援に向けた研究をしています。

低ストレスで行える運動機能の測定方法に関する研究

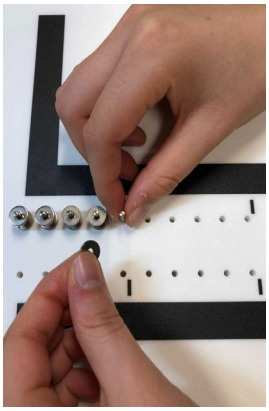
筋力や関節可動域などの運動機能は、私たちの現在およびその後の日常生活活動能力と密接に関連します。このため、これら運動機能の情報は対象者支援の有用な根拠となります。しかし、多くの運動機能の測定は対象者に最大努力を指示して行われるため、血圧上昇や関節痛などのリスクを伴います。そこで多くの人が適応となるように、最大努力を求めずに行う、低ストレスかつ信頼性の高い運動機能の測定方法を研究しています。

非定型発達児に対する運動発達支援に関する研究

自閉スペクトラム症児の多くには粗大運動や微細運動の遅れがみられることが知られています。しかしながら、彼らの運動機能や運動の遅れに対する支援方法は十分に検証されてはいません。そこで非定型発達児の運動の特徴や、運動支援に対する効果指標などを検証し、非定型発達児に対する運動発達支援に向けた研究をしています。







担当科目

保健医療学実践研究／地域生活支援学特論／
地域生活支援学演習／リハビリテーション学特別研究

Message

博士課程への進学は、時間的、経済的な負担が増えるため、大きな決断となります。しかし、修士号を取得した者に残された学位は、最高位の博士号だけです。
言い換えれば、修士号を持つ者だけに、博士課程の扉が開かれているのです。一歩だけ歩を進めて博士課程に足を踏み入れれば、最高学位取得への道は大きく開かれます。是非博士課程へ進学し、自立した研究者として、教育者としての未来を手にしてください。

鈴木 雄介 教授

Yusuke Suzuki



学位・資格・所属キャンパス

博士(保健学)
作業療法士／認定作業療法士
東戸塚キャンパス

専門分野

身体障害領域、なかでも脳血管疾患や外傷性脳損傷等による高次脳機能障害、整形外科疾患や変性疾患を専門領域としています。学士課程では身体障害領域全般と高次脳機能障害関連、クリニカルリーズニングなどの講義、大学院修士課程では脳機能回復学と生活支援医療学に関連する講義を担当しています。今回新たに開設された博士後期課程では地域生活支援学に関する科目と特別研究を担当します。

指導方針

大学院修士課程や博士前期課程での研究を継続される方が多いと思いますので研究テーマは問わずに指導します。ただし、博士後期課程では、修学年限と実現可能性を考慮しつつ新規性のある(前例のない)テーマを自ら設定し論理的に成果をまとめることが求められます。また、以下の研究テーマに興味関心を持っていただける方は、これまでの研究テーマに関連がなくても歓迎いたします。

研究テーマ

社会的行動障害の症状を有する脳損傷患者の家族介護者への包括的な支援プログラムの構築

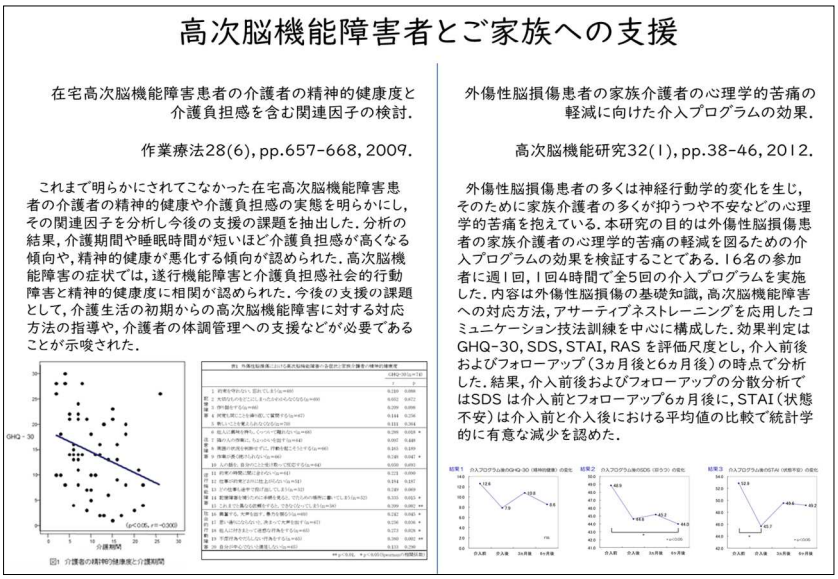
これまでの脳損傷患者の家族介護者への支援や研究の過程で得られた知見を集約し、当事者さまやそのご家族さまと一緒に社会的行動障害の症状を有する脳損傷患者の家族介護者に対し、包括的な支援プログラムを構築したいと考えています。医療・福祉関係者と当事者家族が協力し、試行錯誤しながら取り組むプロセスそのものが、本課題に対する究極的な解決方法の礎になると確信しています。

高次脳機能障害者への地域生活支援と課題解決に関する研究

高次脳機能障害の症状は入院中に目立たないこともあり、自宅退院した後や復職後に明らかになることが多く、医療機関でのリハビリテーションだけでは解決できない課題がたくさんあります。入院中のリハビリテーションのみならず、地域生活を送る上で、私たちリハビリテーション関連職種ができることは何か、地域でこれらの課題に精力的に取り組む実践者と検討しています。

外傷性脳損傷患者の社会的行動障害への対応方法に関する研究

高次脳機能障害による当事者の神経行動学的変化によって、ご家族の多くが抑うつなどの心理学的苦痛を抱えていることの根拠が蓄積されていますが、対応方法もまだまだ手探りの状態です。当事者やご家族が少しでも生活しやすくなるような方法や環境を、当事者はもとより関係機関やご家族と一緒に作っていきたいと考えています。本邦最大規模の高次脳機能障害家族会にご協力いただき、ご家族の対応方法を検討しています。


高次脳機能障害者とご家族への支援

在宅高次脳機能障害患者の介護者の精神的健康度と介護負担感を含む関連因子の検討.

作業療法28(6), pp.657-668, 2009.

これまで明らかにされてこなかった在宅高次脳機能障害患者の介護者の精神的健康や介護負担感の実態を明らかにし，その関連因子を分析し今後の支援の課題を抽出した．分析の結果，介護期間や睡眠時間が短いほど介護負担感が高くなる傾向や，精神的健康が悪化する傾向が認められた．高次脳機能障害の症状では，遂行機能障害と介護負担感社会的行動障害と精神的健康度に相関が認められた．今後の支援の課題として，介護生活の初期からの高次脳機能障害に対する対応方法の指導や，介護者の体調管理への支援などが必要であることが示唆された．

外傷性脳損傷患者の家族介護者の心理学的苦痛の軽減に向けた介入プログラムの効果.

高次脳機能研究32(1), pp.38-46, 2012.

外傷性脳損傷患者の多くは神経行動学的変化を生じ，そのために家族介護者の多くが抑うつや不安などの心理学的苦痛を抱えている．本研究の目的は外傷性脳損傷患者の家族介護者の心理学的苦痛の軽減を図るための介入プログラムの効果を検証することである．16名の参加者に週1回，1回4時間で全5回の介入プログラムを実施した．内容は外傷性脳損傷の基礎知識，高次脳機能障害への対応方法，アサーティブネストレーニングを応用したコミュニケーション技法訓練を中心に構成した．効果判定はGHQ-30, SDS, STAI, RASを評価尺度とし，介入前後およびフォローアップ（3ヵ月後と6ヵ月後）の時点で分析した．結果，介入前後およびフォローアップの分散分析ではSDSは介入前とフォローアップ6ヵ月後に，STAI（状態不安）は介入前と介入後における平均値の比較で統計学的に有意な減少を認めた．

担当科目

保健医療学実践研究／地域生活支援学特論／地域生活支援学演習／リハビリテーション学特別研究

Message

修士課程や博士前期課程を修了した皆さん、その研究をさらに発展させ社会に還元したい、より高度な知識を身につけた専門職業人になりたい、大学教員になって研究を業務の一環としたいなど、博士後期課程への進学でその目標を叶えませんか。

森尾 裕志 教授

Yuji Morio



学位・資格・所属キャンパス

博士(リハビリテーション科学)
理学療法士／専門理学療法士(内部障害)／心臓リハビリテーション指導士
東戸塚キャンパス

専門分野

呼吸循環系障害者の身体運動機能に関する研究。
特に高齢者を対象とした筋力、バランス能力と歩行能力、ADLとの関係について。

指導方針

私は18年間、大学病院で理学療法士として働いてきました。培った臨床経験をもとに、呼吸循環分野や、高齢者に関する分野を研究しています。皆さんが臨床で感じる疑問や閃きを第一に考え、 研究への興味を具体化するお手伝いができればと思っています。新しい事にチャレンジしたい、という方を募っています。

研究テーマ

高齢心疾患患者の下肢筋力、およびバランス能力と歩行能力に関する研究

下肢筋力は歩行能力を決定づける重要な因子ですが、下肢筋力だけでは歩行自立度の判別が困難な症例がいます。そんな症例を経験したことをきっかけに私は研究を始めました。私も最初は研究方法が分からなかったので、大学院に入学し、研究法を学ぶことから始めました。研究をすることにより、患者さんに対する運動プログラム立案にも活用できることを知りました。臨床に役立つ研究を意識するようにしています。

日常生活に必要な筋力水準について

握力は、高齢者における重要な体力指標の一つです。私は、日常生活にある身近な物品を用いて握力低下者を抽出することを試みました。それが「ペットボトルキャップが開栓できるか否か」でした。分析の結果、ペットボトルキャップを開栓するためには、15kgf以上の握力が必要であることがわかりました。握力が弱い方を見つける事が出来れば、早期に体力低下予防を促すことが出来るかもしれません。

高齢入院患者における歩行速度と歩幅の関係

「歩幅が小さい」とは、一体どれくらいでしょうか？分析の結果、身長に対して31%以上の歩幅が必要であることが明らかになりました。本研究結果のように具体的な目標が明らかになると、患者さんにも具体的な指導がしやすくなります。患者さんの励みになるような目標値を明らかにしていくことも、私たちが研究をする目的の一つだと思っています。

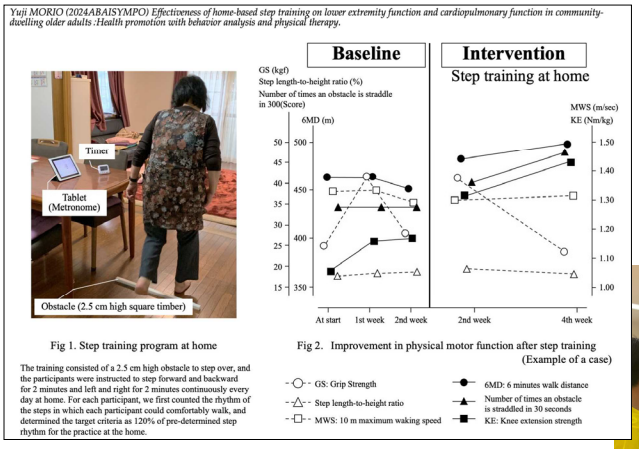


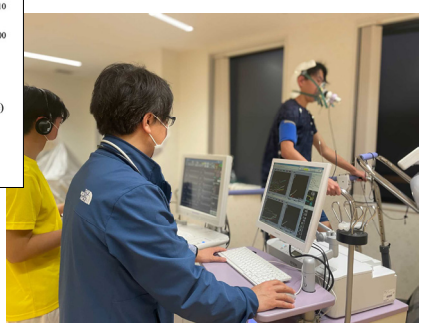
Fig 1. Step training program at home

The training consisted of a 2.5 cm high obstacle to step over, and the participants were instructed to step forward and backward for 2 minutes and left and right for 2 minutes continuously every day at home. For each participant, we first counted the rhythm of the steps in which each participant could comfortably walk, and determined the target criteria as 120% of pre-determined step rhythm for the practice at the home.

Fig 2. Improvement in physical motor function after step training (Example of a case)

担当科目

保健医療学実践研究／身体機能支援医療学特論／
身体機能支援医療学演習／リハビリテーション学特別研究



Message

世界中の壮年、高齢者の健康に寄与できる研究を目指しています。
一緒に勉強して、高みを目指しましょう。

山田 拓実 教授

Takumi Yamada



学位・資格・所属キャンパス

博士(医学)
理学療法士
東戸塚キャンパス

専門分野

高齢期の介護予防・認知症予防や健康増進、ならびに生活習慣病を含む内部障害や運動器障害に対する理学療法を予防の視点から研究をしています。介護予防、内部障害の臨床的研究の他、三次元動作解析装置と超音波診断装置やMRI(磁気共鳴画像)を用いたバイオメカニクス的研究により予防プログラムの開発・有効性の検証をしています。

指導方針

受験前の面談で大学院で実施したい研究テーマについて伺い、研究方法等のアドバイスをいたします。入学後は、予備実験を基に研究計画の作成・倫理申請書類を作成し、本実験データ収集および分析を進めていきます。1年次後期に本実験が開始できれば順調なペースだと思います。

研究テーマ

介護予防・転倒予防運動プログラム　荒川ころばん体操の開発と普及活動

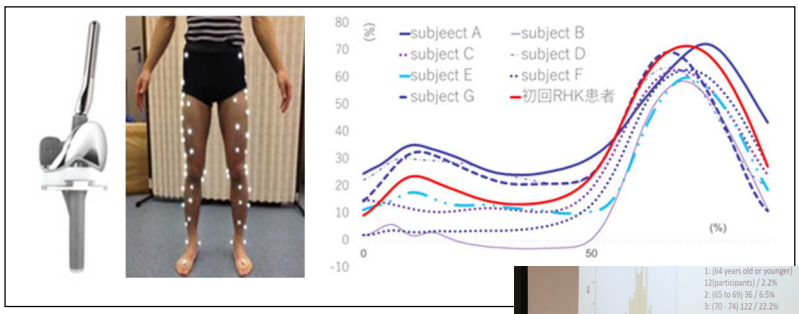
2000年以降, 荒川区・上尾市・富士見市・浦安市・新潟県三条市・小金井市等の行政と連携した高齢者の健康増進・介護予防をテーマに研究を発展されてきました。特に荒川区と協働で開発と普及を進めた「荒川ころばん体操」は介護予防一般高齢者施策の先駆けの事業として注目を集め、年間参加延べ人数60,000人の規模で実施されています。介護保険費用の削減や新規要介護発生を遅らせる効果について検証をおこなっています。

人工膝関節の歩行解析

高精度モーションキャプチャデータと筋骨格モデリング・解析システム(Software for Interactive Musculoskeletal Modeling(MusculoGraphics, Santa Rosa, USA)SIMM)を組み合わせ、各種TKAインプラント(CR型、PS型、MP型、RHK型)の膝関節kinematics、Kineticsを解析しています。TKA患者および健常者で、膝内反モーメント、膝回旋モーメント、medial pivot motion、大腿骨前後移動量を中心に比較をしています。人工関節の緩みの原因となるインプラントに対するメカニカルストレスに関しても検討しています。

超音波診断装置やMRIによる画像や、マルチ生体電気インピーダンス法を用いたフレイル・腰痛・運動習慣の研究

サルコペニア・ダイヤペディアに伴う筋量・筋質の評価には、MRIのDIXON法、超音波による筋輝度、マルチ生体電気インピーダンス法(MFBIA法)によるphase　angle等が用いられています。大腿部や多裂筋の除脂肪筋断面積や筋内脂肪量を計測し膝伸展筋力などの運動機能との関連を研究しています。





担当科目

地域生活支援学特論／地域生活支援学演習／身体機能支援医療学特論／身体機能支援医療学演習／リハビリテーション学特別研究

Message

大学院でより高度な理学療法学と研究法について学んでください。
海外を視野にした学会発表・論文作成を是非体験してください。

増田 雄亮 准教授

Yusuke Masuda



学位・資格・所属キャンパス

博士（リハビリテーション科学）
作業療法士／認定作業療法士／公認心理師
東戸塚キャンパス

専門分野

リハビリテーション科学・身体障害作業療法学。特に、回復期～生活期リハビリテーションに関する研究を専門としています。また、脳・情報・心理に関連する健康情報学・数理科学・神経科学・認知科学・生涯発達心理学などに強い関心を持っています。研究キーワードは、脳卒中リハビリテーション・意思決定・エビデンス・データサイエンス・医療心理統計・数理モデル・生涯発達・学習理論・自己効力感・モチベーションなど。リハビリテーション科学・心理学・情報学を融合した観点から、人々の健康と生涯発達に寄与する研究を理想としています。

指導方針

リハビリテーション科学領域における諸課題を解決していけるような研究を共に追求していきたいと考えています。博士論文の執筆は、これまでの臨床・教育・研究の経験を1つのストーリーとしてまとめる作業となります。また、新規性のある学術論文としての公表も求められます。先行研究の調査・研究計画書の作成・研究の実施・データ分析・論文執筆のプロセスを二人三脚で進めてまいります。また、学会での発表、学術論文としての公表を積極的に支援いたします。

研究テーマ

リハビリテーション医療における意思決定・エビデンスに基づく実践に関する研究

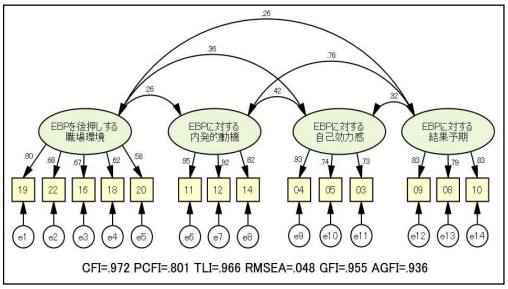
近年、リハビリテーション科学分野においては多くのエビデンスが創出されていますが、これらの知見を臨床現場で有効に活用できているとはいえない現状があります。そこで私はこれまで、エビデンスに基づくリハビリテーション実践（EBP）を促進する方策に関する研究を行ってきました。現在は、リハビリテーション専門職を対象としてEBPに関する知識と技術を修得するための卒前・卒後教育に関する研究に着手しています。

神経科学を基盤とした脳卒中後の上肢・ADL障害に対するリハビリテーション研究

2000年以降、神経科学を基盤としたニューロリハビリテーションと課題指向型訓練の有効性に関するエビデンスが急増してきました。私はこれまで、回復期リハビリテーションの現場において、脳卒中後の上肢・ADL障害に対して最善のエビデンスを適応しながら臨床研究を積み重ねてきました。現在は、生活期リハビリテーションの現場において、慢性期の脳卒中後上肢麻痺に対するリハビリテーション研究に取り組んでいます。

リハビリテーション科学分野における医療・心理統計手法と尺度開発研究

エビデンスに基づいて臨床的な意思決定や課題解決を行うために、数理科学やデータサイエンスの分野に強い関心を持っています。さまざまな医療・心理統計手法を学ぶことで、研究の幅が広がります。特に、尺度開発研究では、項目反応理論・因子分析・構造方程式モデリングなど高度な数理統計学の知識が必要となります。現在は、リハビリテーション専門職に求められる知識・技術・態度を可視化する尺度開発研究を行っています。





担当科目

保健医療学実践研究／身体機能支援医療学特論／
身体機能支援医療学演習／リハビリテーション学特別研究

Message

臨床・教育・研究のバランスを習慣化することで、自身の成長・対象者の利益・リハビリテーション科学の発展に好循環が生まれると信じています。博士論文の作成は、多くの困難があると思いますが、乗り越えていけるように支援してまいります。本学の博士課程で共に研究できることを楽しみにしています。

カリキュラム

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数	
				必 修	選 択
共通科目		医療倫理学特論	1通	2	
		教育学特論	1通		2
		研究特論	1通		2
		保健福祉学特論	1通		2
		小計(4科目)	−	2	6
基礎科目		高等教育学	1通		2
		保健医療学基盤研究	1通		2
		保健医療学実践研究	1通		2
		小計(3科目)	−		6
専門科目	看護学領域科目	健康支援ケアシステム学特論	1前		2
		健康支援ケアシステム学演習	1後		4
		地域生活ケアシステム学特論	1前		2
		地域生活ケアシステム学演習	1後		4
		生涯発達ケアシステム学特論	1前		2
		生涯発達ケアシステム学演習	1後		4
		小計(6科目)	−		18
	リハビリテーション学領域科目	地域生活支援学特論	1前		2
		地域生活支援学演習	1後		4
		身体機能支援医療学特論	1前		2
		身体機能支援医療学演習	1後		4
		小計(4科目)	−		12
特別研究科目	看護学領域科目	看護学特別研究	1〜3		10
	リハビリテーション学領域科目	リハビリテーション学特別研究	1〜3		10
		小計(2科目)	−		20
合計(19科目)			−	2	50

■取得学位・修了要件

【博士(看護学)】 英語名称:Doctor of Nursing

共通科目から4単位(必修科目2単位、選択科目2単位以上)、基礎科目から2単位以上、専門科目内「看護学領域科目」から6単位以上(選択した特別研究に関わる研究領域の特論科目2単位以上・演習科目4単位以上)及び特別研究科目から10単位を履修し、合計22単位以上を取得するとともに、必要な研究指導を受けた上で、本研究科が実施する博士論文審査及び最終試験に合格すること。

【博士(リハビリテーション学)】 英語名称:Doctor of Rehabilitation

共通科目から4単位(必修科目2単位、選択科目2単位以上)、基礎科目から2単位以上、専門科目内「リハビリテーション学領域科目」から6単位以上(選択した特別研究に関わる研究領域の特論科目2単位以上・演習科目4単位以上)及び特別研究科目から10単位を履修し、合計22単位以上を取得するとともに、必要な研究指導を受けた上で、本研究科が実施する博士論文審査及び最終試験に合格すること。

年間スケジュール

学年	1年次			2年次	3年次			
月	4	5	7~9	4	4	10	2	3
	入学ガイダンス	研究指導員等の決定 研究課題の決定	研究計画の立案	博士論文の作成	学会発表 学外論文	博士論文中間発表	博士論文発表	学位記授与式

学内施設

図書館

北欧の図書館をイメージしてデザインされた蔵書数 2 万冊の図書館です。医療系大学の図書館として、専門的な書籍を豊富に蔵書しています。
平日は20時、土曜日は 17時まで開館しており、調べ物や国家試験の勉強に励む学生が多く活用しています。



院生研究室

院生のみが利用可能な研究室です。個人の机とノートパソコンが配置されています。キャンパスの開館中は自由に利用ができ、夜遅くまで院生が利用していることもあります。
多くの院生が残した研究成果は、この部屋から生まれていると言えるでしょう。



大学院講義室(大)

約 50 名が収容できる大講義室です。机と椅子が窓に面しているため、晴れた日には、陽の光が降り注ぐ明るい雰囲気で授業を受けることができます。



学生食堂

本学 4 階にある学生食堂では昼食はもちろんのこと、昼食時間以外は、学生が語り合う場でもあります。窓も大きく、陽ざしが気持ちの良い環境となっており、また、無線 LAN も整備されています。



学費

看護学領域／リハビリテーション学領域(共通)学費

	入学金	学生納付金		小計
		前期	後期	
1年次	300,000 円	400,000 円	400,000 円	1,100,000 円
2年次	-	400,000 円	400,000 円	800,000 円
3年次	-	400,000 円	400,000 円	800,000 円
合計	300,000 円	1,200,000 円	1,200,000 円	2,700,000 円

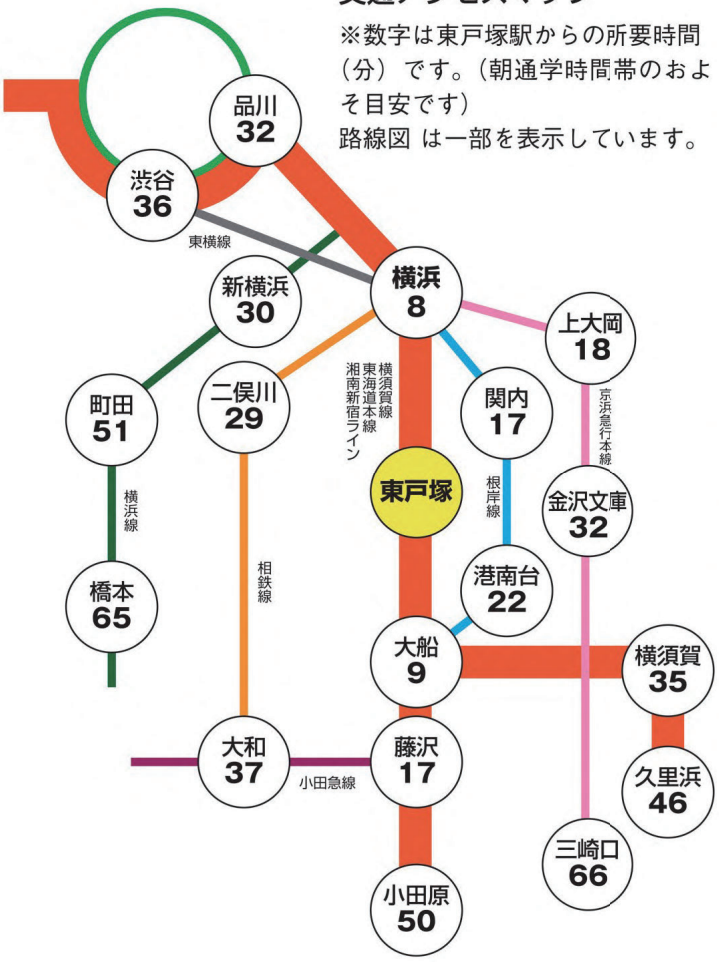
※ 長期履修制度適用時など学費の詳細は、学生募集要項及び大学院ホームページにてご確認ください。



横浜エリアは交通が便利。
県内はもちろんの事、東京・静岡等、
近隣県からの通学も可能です。

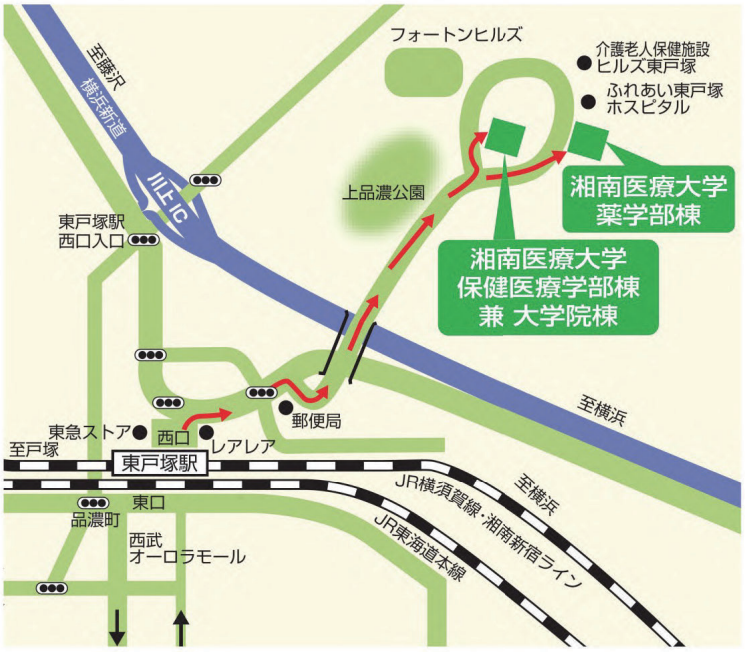
交通アクセスマップ

※数字は東戸塚駅からの所要時間（分）です。（朝通学時間帯のおよそ目安です）
路線図 は一部を表示しています。



発展する東戸塚地域、
自然と融合した落ち着いた空間です。

東戸塚駅西口より徒歩 15 分



湘南医療大学 大学院

〒 244-0806 神奈川県横浜市戸塚区上品濃 16-48

TEL:045-821-0188

HP：https://sums.ac.jp/html/graduate_school/

大学院ホームページ

ふれあいグループがスペシャリストへの道をバックアップします

グループの将来を担う看護師、保健師、理学療法士、作業療法士を育成する本学への期待は益々高まっており、関連病院、施設との間で様々な形で、優秀な医療スタッフを育成するための連携が行われています。

教　育

学校法人　湘南ふれあい学園
- 湘南医療大学
- 茅ヶ崎看護専門学校
- 湘南医療大学附属 下田看護専門学校
- 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校
- 医療ビジネス観光福祉専門学校
- 幼保連携型こども園　みどり幼稚園
- ふれあい医療福祉研修センター

保　健

医療法人社団　康心会
- 湘南健康管理クリニック

医療法人　回生会
- ふれあい横浜ホスピタル 健康管理センター

医　療

医療法人社団　康心会
- 湘南東部総合病院
- 茅ヶ崎中央病院
- 茅ヶ崎新北陵病院
- ふれあい町田ホスピタル
- ふれあい鶴見ホスピタル
- 湘南さくら病院
- 康心会伊豆東部病院
- 康心会汐見台病院
- 湘南東部クリニック
- ティーエイチピーメディカルクリニック
- 訪問看護茅ヶ崎ふれあいステーション
- 居宅介護支援センターふれあい北口ケアセンター
- 茅ヶ崎市地域包括支援センターすみれ
- 鶴嶺東地域包括支援センターさくら

医療法人社団　健齢会
- ふれあい平塚ホスピタル
- ふれあい東戸塚ホスピタル
- ふれあいクリニック泉

医療法人　大樹会
- ふれあい鎌倉ホスピタル
- 介護老人保健施設　ふれあいの桜

医療法人　回生会
- ふれあい横浜ホスピタル

医療法人社団　公仁会
- 大和成和病院
- 成和クリニック
- 成和訪問看護ステーション

医療法人社団　さがみ野中央病院

医療法人社団　柏綾会
- 綾瀬厚生病院
- あやせ訪問看護ステーション

医療法人社団　静岡康心会
- ふれあい沼津ホスピタル
- ふれあい沼津クリニック
- 援護寮千本レジデンス、グループホーム千本、グループホーム千本コーポ

医療法人社団　辰五会
- ふれあい南伊豆ホスピタル
- 介護老人保健施設　ふれあいの下田
- 南伊豆地域生活支援センターふれあい
- ふれあい上野山訪問看護ステーション

2023.12